

CHILD LABOUR

福岡県 久留米市立田主丸中学校 3年

栗木 乃愛 (くりき のあ)

夏休みのある日、部活動から帰宅して、いつものように冷蔵庫に直行していた私は、台所のテーブルの上にぽつんと置かれた一枚のクリアファイルに足をとめた。それは、私の好きな絵本作家ディック・ブルーナさんのイラストがのったクリアファイルだった。描かれていたのは、一人の男の子で、私が幼い頃からなじみのあるうさぎのミッフィーちゃんではなかったのだが、「かわいいなあ。」と思いつきながら手に取った瞬間、その中央にかかれた男の子の目の下に一粒の大きなしずくが描かれていることに気がついた。「涙」だった。「えっなんで泣き顔なんだろう。」と不思議に感じて、よく見てみると、その泣き顔の男の子は、黄色い細長い何か板のようなものを何枚か抱えていた。また「えっ。」と一瞬、私はその絵の意味することが理解できず、すぐに男の子の上の方に書かれた英語の言葉を読んでみた。赤いブロック体の太文字で、「STOP! CHILD LABOUR」と書かれていた。「CHILD」は、英語の授業で習ったことのある単語だったので、「子ども」という意味だとすぐ分かった。しかし、その次の「LABOUR」はさっぱりわからなかった。でも、このときの私は、この男の子が泣いている理由をどうしてもすぐに知りたかったので、急いでとなりの部屋の本棚から英和辞書を持ってきて調べてみた。「labour」一. 労働 二. 労働者 三. 労働する とあった。詳しくみると、「骨の折れる仕事」とも書いてあった。私の頭の中は、イラストの男の子のかわいらしいイメージと「LABOUR 労働」という言葉のきついイメージがぶつかり合って、強い違和感と何とも言えない切ない気持ちでいっぱいになった。

とりあえず台所から持ってきたひんやりと冷えたジュースを飲みながら、私は自分専用のタブレット端末をひらき、そのクリアファイルの裏面にかかれたアドレスを入力してみた。するとそこは、世界中の人権にかかわるさまざまな問題やニュースの掲載であふれていた。思わず「ええっ、こんなにいろいろな人権問題があるんだ。」と、とても驚いてしまった。それぞれの問題について、国別またはトピック別に選んで閲覧できるようになっていた。そして私は、もちろん真っ先に「児童労働」と書かれた文字をタッチしてページを開いてみた。まず、あどけない表情の男の子が何かを持ち上げようとしながらこっちを見ている写真があった。つづけてスクロールしていくと、裸足や破れたサンダルをはいた子どもたちが、がれきの上でしゃがんで何かしている写真が現れた。おなじ年頃の子ども

たち同士で一緒に楽しく遊んでいるようには、私にはとても見えなかった。なぜなら、どの子の顔にも笑顔は一かけらも無く、口をくっくむすんでいて、つまらなさそうにも怒っているようにも見えたからだ。私はその写真の横に書いてある説明文を読んで、また驚いてしまった。なんとそれは、今、私が使っているタブレット、ほかにも携帯電話やスマートフォン、家庭用ゲーム機器などの電子材料に欠かせないレアメタル（希少金属）の選別作業をしている子どもたちの写真だった。私が最初、「がれき」だと思っていたのは、レアメタルの一つのコバルトという金属をふくむ鉱石だったのだ。

こうして私が何かを知りたいと思った時、どんなことでもすぐに調べることができ、見ることができ、いつも私を助けてくれるこのタブレット。クリスマスのプレゼントに両親に買ってもらったお気に入りのタブレット。でも、このタブレットの奥には、粉塵が舞う中、酷暑の中、時には命を落とすこともあるという過酷な労働環境の中で、あどけないあの子どもたちが小さな手で手掘りしたレアメタルが入っているかもしれないのだ。「遠いどこかのきれいに整備されたほこり一つない精密機器の工場で作られ、音楽の流れているきれいなお店にピカピカと並べられ、そして私のところへやってきたんだろうな。」と、ぼんやりとそこまでしか想像していなかった自分をととても恥ずかしく思った。

私は、写真の子どもたちの口を一文字に結んだあの表情、そして、クリアファイルに描かれた男の子の大粒の涙の意味が、今ようやく分かった。

説明によると、その写真が撮られた採掘場は、アフリカ大陸中央部に位置するコンゴ民主共和国にあり、この国は世界トップクラスの鉱産資源国なのだそうだ。しかし、レアメタルという莫大な富をもたらす鉱産資源の奪い合いが原因で何十年も内戦が続き、この国は、今、世界最貧国の一つとなっている。

私は悲しくなった。と同時に悔しさが込み上げてきた。なぜなら、大人達の争いによる貧困の犠牲になっているのは、私たちと同じように未来のある「子ども」なのだから。